

田んぼづくりの準備

江南小学校（八戸市）

六年 小 泉 璃 子

コロナで臨時休校になり、自しゆく生活が続いた今年の春、私はお母さんと畑に田んぼを作りました。まず、畑に深さ五十センチ位、たて横一メートルの四角形の穴をほりました。次に、ブルーシートで穴をおおい、重石をのせました。そして、畑の土、かれ草、肥料を穴へいれました。最後に、水をたっぷり入れて畑んぼが完成しました。

祖父からもらった苗でいよいよ田植えのスタートです。根っこがからみ合って、マット状になった苗のかたまりから三本ほどの苗を手に取り、畑んぼに植えました。手を田んぼに入れた時のむにゅつとした、何とも言えない感かくは、ふつうの田んぼと同じ感かくでした。最初は苗を深く植えたほうがいいと祖父に聞き、たつぷりと水を入れた田植えの日の夜、雷が鳴って大雨が降りました。田んぼの水があふれるのではないかと、夜中も心配でたまりませんでした。よく朝田んぼを見ると、田んぼに水はありませんでした。水が全て土にしみこんでいたのです。雨が降っただけでこんなにも心配になった私は、米作りをしている人たちもこんな気持ちになるのかなと、米農家になった気分です。つぷりうれしくなりました。

春から初夏にかけて、雨がとても多く、水やりにはこまりませんでした。しかし水があふれそうになり、雨が降るたびに何度もバケツで水をくんで、その水をきゅうりやナスにかけました。田植えをしてまもなく、本物の田んぼにいるアメンボやゲンゴロウのような虫を発見して、とてもうれしくなりました。野良ネコや、カラス、キジもときどき来ては、田んぼをのぞきこんで、成長を見守ってくれているようでした。

七月になると、本物の田んぼで見るとようなもや草も生えてきました。しかし、あんなに降っていた雨が全く降らなくなりました。ふ通の田んぼにある用水路から水を引く、ということができないのです。水の管理が一番大事だよ、と祖父に聞き、朝夕田んぼの水やりをしました。努力のかがあって、苗はどんどのびて、私のひざたけぐらいになり、こい緑色の葉っぱがそよそよと風になびくようになりました。

八月になり、苗の真ん中からほが出てきました。そして、まもなくいねの花が咲きました。白くて、小さくて、かわいい花です。

これから、お米が成長して、いなほがたれて、私の畑んぼが黄金色にかがやく日が待ち遠しいです。いねかりまでの間、鳥の被害に気をつけながら大切に守っていきたいと思います。お米を食べるのが楽しみです。

夏休み、親せきのおばさんに、

「今度は本物の田んぼでやってみなさい。じいじも助かるよ。」

といわれました。いつか私が本物の田んぼを受けついでやってみみたいです。